

優秀賞



青木*

設計担当者

青木 淳

東京建築士会、AS (2020.8より青木淳建築計画事務所から改組)

共同設計者

西澤徹夫

東京建築士会、西澤徹夫建築事務所

森本貞一

大阪府建築士会、(株)松村組

久保 岳

大阪府建築士会、(株)昭和設計

美術館 / 京都市左京区岡崎円勝寺町

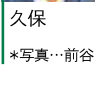
京都市美術館



西澤*



森本



久保

*写真…前谷開

構造 | 既存建物…鉄筋コンクリート造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造
増築建物…鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造

階数 | 地上2階・地下1階

敷地面積 | 25,383.71㎡

建築面積 | 8,205.67㎡ (再整備工事対象外として別途276.74㎡)

延べ面積 | 18,737.92㎡ (再整備工事対象外として別途757.25㎡)

竣工 | 令和元年10月31日



1

- 1 二条通側から、スロープの広場と神宮道、ガラスリボンを見る
- 2 スロープの広場に面する増築したガラスリボン内のカフェ
- 3 「下足室」として使用されていた地下エントランス。中央ホールに通じる大階段がある
- 4 新館のロビーから東山を借景とする日本庭園を見る

- 5 各展示室への動線のハブになる中央ホール。左右のバルコニーとEV・螺旋階段、地下に通じる大階段は増築

写真1…青木西澤設計共同体

写真2~5…阿野太一

選評

京都に住む私にとって京都市美術館は特別な場所である。家が近いので面白い企画展にはよく足を運び、企画展がない時でも散歩がてら子どもを連れて常設展を見に行ったりしていた。さらに毎年1月から3月にかけては京都にあるいくつかの美術系大学の卒業展覧会の会場となっていたため、その1つで教鞭をとっていた頃は幾度となく自分たちで搬入・展示・搬出を行う場所でもあったのだ。

その美術館が内外共にその面影をほとんど変えることなく、見事にリニューアルされたのはまです京都市民としてとてもうれしく思う。また、建築家としても同地区で数年前にリニューアルされた京都会館の事例と比較して、その取り組みの姿勢と手法に格段の成熟度の高さを見る

思いがする。近代主義もこれほど謙虚に、その土地の歴史や文化の継続性と人々の記憶の重要性に配慮できるほどに成長したのだと感心したのが私の第一印象である。

計画全体で最も見事なのは動線処理である。館の表情を大きく左右する既存の正面玄関はほとんど手をつけず元のままとし、玄関前の広場を左右からスロープ状に掘り込んで新たな玄関を地下1階レベルに設けている。それによりバリアフリーを達成しながら、今まで単調だった広場部分にレベル差による変化を生み出している。ゆるい谷間のようなスロープの広場は見晴らしがよく、段差に腰を掛けて休む人も多い。いずれコロナ禍が収束すれば野外劇場のようなスペースとしてさまざまな屋外イベントに

使用され、市民に愛される広場となることだろう。

地下の玄関から入ると正面に新設された大階段があり、それを上がると大きな吹抜けのホールに出る。ここは元は彫刻展示のためのホールだったが、利用者としては天井が高くガランとしていて展示が難しい部屋だったので、ここに階段やエレベーターや2階レベルに回廊を新設して動線の要となるホールとして改修したのは大正解だったと思う。

さらにホールの正面には大きなガラスの開口部が設けられ、そこから奥にある日本庭園とさらに東山を借景として見ることができる。この部分は元は彫刻ホールの搬入口があった裏方の場所で、元からあった日本庭園も美術館の中からは一切見ることはできなかったが、そこにガ



2



3



4

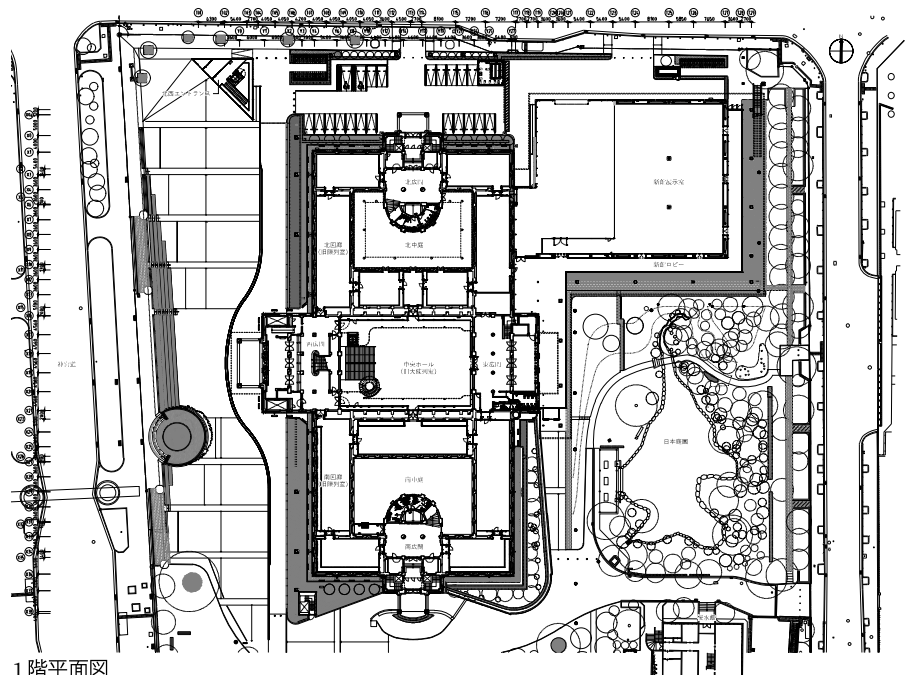


5

ラス張りの回廊がつけられたことで見事に活かされることになった。さらにその回廊の屋上部分はテラスになっていて、そこから東山を見ることができ、以前は閉鎖的だった美術館が京都の街とそれを囲む山々に開かれた印象となった。

建物の部分部分を見ると昔とほとんど変わってないのに、館内を歩くと今までとまったく違った今日にふさわしい美術館になっていることにあらためて驚かされる。そして、そこにこそ、設計者の技量の高さと、近代主義の成熟度の深みを見て取れるのである。このリニューアルにより、京都市美術館は今までの記憶と歴史を継承しつつ、これからも京都市民の誇りとして長く愛されていくことになるだろう。

(横内敏人)



1階平面図